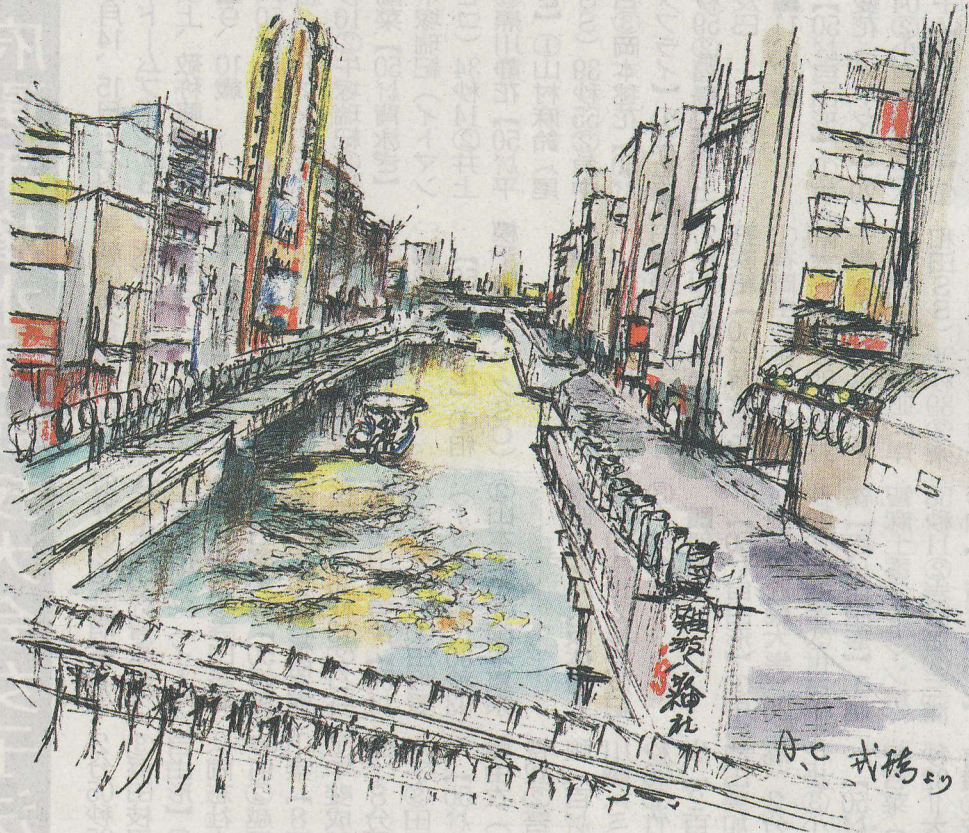




心斎橋筋のオンリーワン

いすね」と印象をぶつけた。理事長はすんなり認めた。中高年の方たちから「昔は良かった」とよく聞かされているという。具体的には「老舗を見て回って、変わった新しいモノを見るのが楽しかったし、店員さんと顔なじみになり、世間話をしながら落ち着いて買い物できるのが安心でしたよ」という言葉が代表的だ。「そのような、お得意さま扱いのできる老舗が姿を消したのはいつごろからですか」と尋ねると、即座に答えが返ってきた。

「80年代の後半ですね。伝統を守ってきた老舗は後継者や従業員問題で悩み、結局、賃貸ビル業に変身したのです。ちょうど御堂筋の西側にアメリカ村ができて、心斎橋に

服のポイントである草履ではなく、珍しいコトがとハンドバッグのセットとを中心に、浴衣と下駄の夏スタイルなどの和装生活の提案セーラーズをしてくださった「もてなした。その上に、ほとんど手を通していない着物とか、佐賀錦等の帯などをリメイク・リフォームをしてバッグや草履にしている姿勢は、環境・資源問題を思うとあっぱれである。こんなアップデートな

「珍しいコト」にもてなしの心

老舗がさらに増えたら、中高年層も戻ってくるであろう。強い顧客志向が理事長に一つのアイデアを思いつかせた。「お客にもう一度、心斎橋筋に戻ってもらうためには、心斎橋筋の商店にしかないモノを開発する以外に

ではなく、珍しいコトがオンリーワンになるかもしれない。その珍しいコトの中に、昔から老舗がはぐくんできた「もてなし」の振る舞いも入るかもしれない。温故知新という視点に創造性を加えて、お金の取れるニューサービスなども考えられよう。

最後に「次回の取材はオンリーワンの紹介ですね」と言って、松原ビルを後にした。地下鉄駅ま

で、伊達理事長の営む履物店「てんぐ」も、多くの支店を閉じて本店だけで営業しているという。大量販売を目指すファッション店の中で、和

前の「心斎橋・石橋100周年にちなんで」の本文中で、「架橋100周年に向けて」とあるのは「架橋400周年」でした。

心斎橋筋北商店街に続いて助かった。心斎橋筋商店街を横切るとき、バーゲンの季節なのか、左右からの呼び込みギャルの嬌声に驚いた。50年ほど前、この商店街を訪れた時は、静かで高級

「80年代の後半ですね。伝統を守ってきた老舗は後継者や従業員問題で悩み、結局、賃貸ビル業に変身したのです。ちょうど御堂筋の西側にアメリカ村ができて、心斎橋に

